

令和4年度 全国学力・学習状況調査

香取市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の名称 令和4年度全国学力・学習状況調査

3 調査の対象

- (1) 小学校調査 小学校第6学年
- (2) 中学校調査 中学校第3学年

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査【国語、算数・数学、理科】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等。
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

5 調査実施日 令和4年4月19日 火曜日

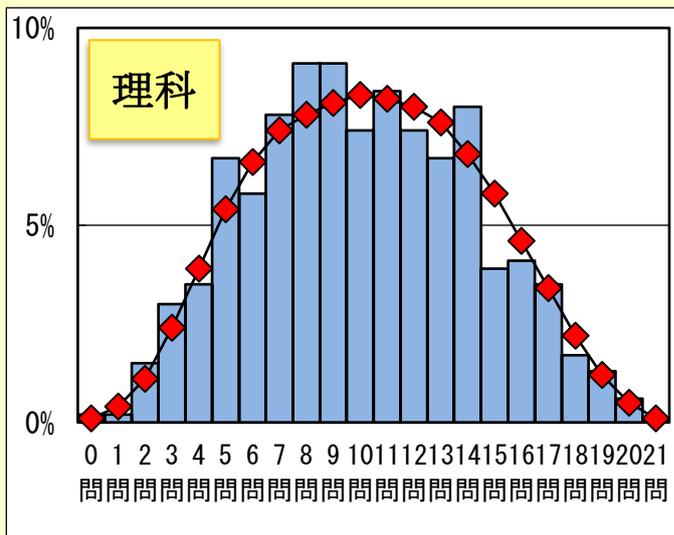
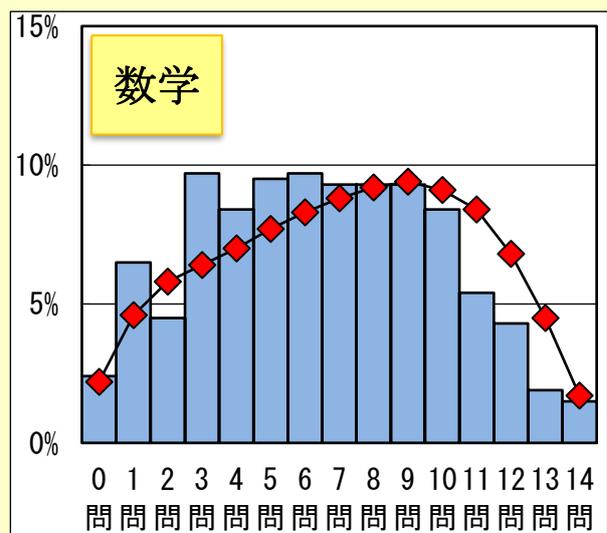
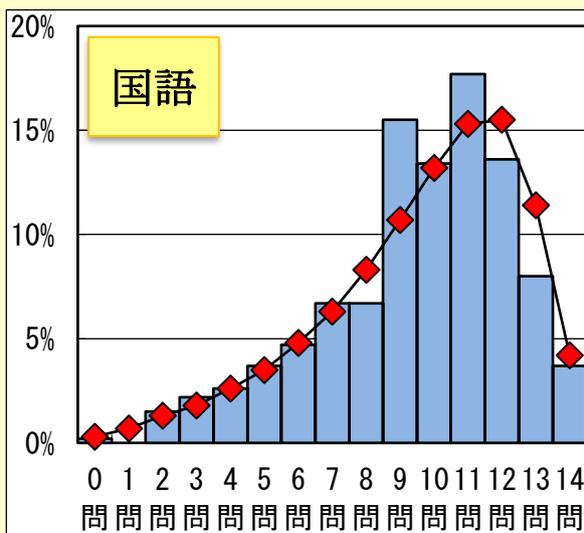
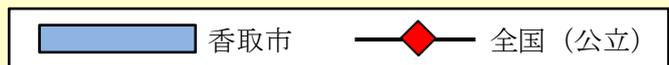
中学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科	香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	68	68	69.0
数学	46	50	51.4
理科	48	48	49.3

【正答数分布グラフ】



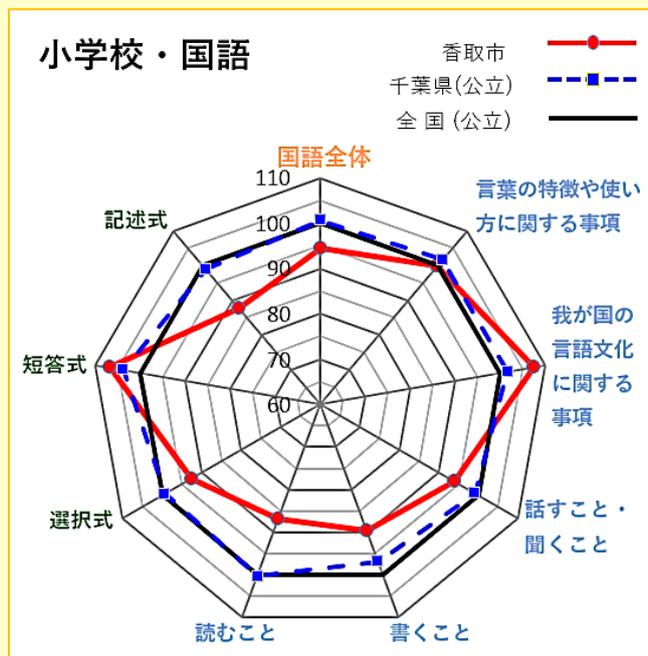
平均正答率では、香取市は国語・数学・理科すべての教科で全国(公立)の結果を下回っています。特に数学の結果は、千葉県(公立)と比較して4%、全国(公立)と比較すると5.4%低いことがわかります。

正答数分布グラフでは、特に数学の結果において、下位層の厚さを見取ることができます。

(2) 教科についての傾向と課題

※全国（公立）の平均正答率を 100 として、千葉県（公立）、香取市の平均正答率を相対的に表したグラフです。

小学校の傾向と課題



内容別では、「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を上回りましたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回っています。特に「読むこと」では、全国平均を 100 とした場合、香取市が 86.8 となる結果でした。

問題形式別では、「短答式」が全国平均を上回ったものの、「選択式」「記述式」では下回り、課題が見られます。特に「記述式」では、全国平均を 100 とした場合、香取市が 87.7 となる結果でした。

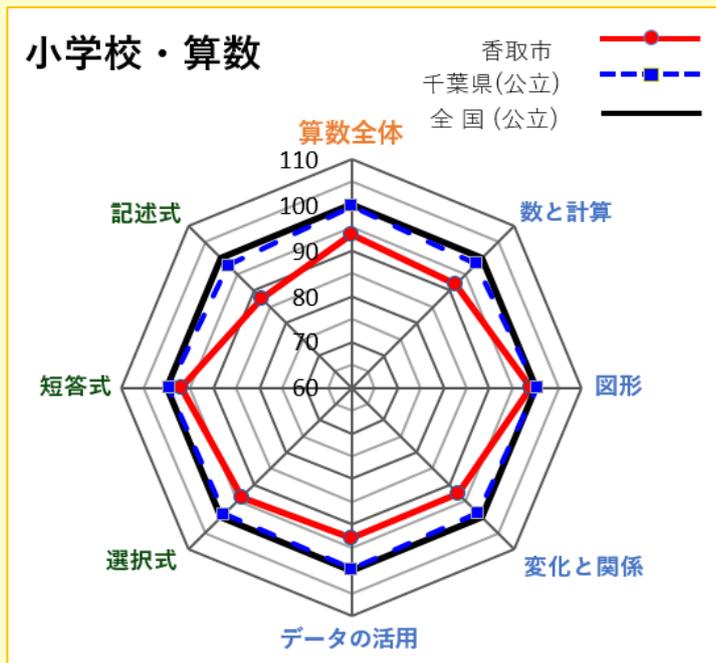
課題が見られた主な問題

● 国語 2 一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する 【読むこと，選択式】 [香取市 60.0% 千葉県(公立)70.8% 全国(公立)70.6%]
● 国語 2 二	物語から伝わってくることを考え，【森田さんの文章】の A に入る内容を書く 【読むこと，記述式】 [香取市 61.7% 千葉県(公立)68.5% 全国(公立)68.3%]
● 国語 2 三	【山村さんの文章】の B に入る内容として適切なものを選択する 【読むこと，選択式】 [香取市 49.6% 千葉県(公立)59.1% 全国(公立)59.2%]

力を入れたい学習

- 物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目させるため、物語全文が一枚の用紙に掲載されたシートを活用したり、登場人物を人物相関図に表したりする。
- 物語の全体像を明確にするため、着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりする。
- 表現の効果を考えられるようにするため、感動やユーモアを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目し、その効果について話し合う活動を取り入れる。

小学校の傾向と課題



領域別では、「図形」は全国平均と同程度といえますが、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」において全国平均を下回っており、大きな課題となっています。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて全国平均を下回っています。特に「記述式」が大きな課題となっており、全国平均を100とした場合、香取市が87.7となる結果でした。

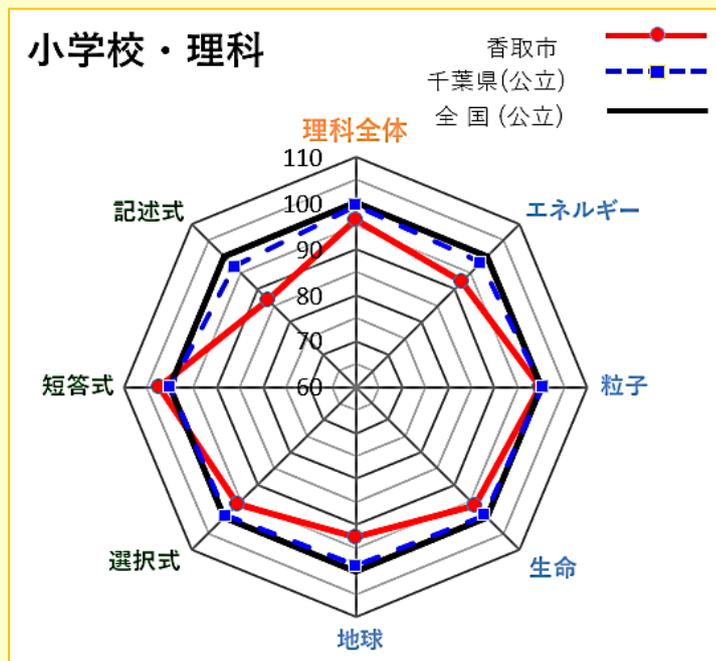
課題が見られた主な問題

● 算数1(3)	カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求められることができるわけを書く 【数と計算, 記述式】 [香取市 68.6% 千葉県(公立)74.0% 全国(公立)76.0%]
● 算数2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く 【変化と関係, 記述式】 [香取市 40.7% 千葉県(公立)46.4% 全国(公立)48.0%]
● 算数3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く 【数と計算, 記述式】 [香取市 58.7% 千葉県(公立)66.9% 全国(公立)67.7%]

力を入れたい学習

- 日常生活の問題を解決するために、「一つ分の大きさ」「いくつ分」「いくつ分かに当たる大きさ」を捉えて式に表したり、式の意味を説明したりする活動を習慣付ける。また、問題場面の数量の関係に着目して簡潔に図や式で表すとともに、式を読み取ったり、正しく計算したりする活動を習慣付ける。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるようにするために、二つの数量のデータを表に整理し、比例の関係等を見いだす活動を設定する。その際は、一方の数量のみに着目するのではなく、二つの数量がどのように変わっているかに着目させるようにする。
- 得られた結論について、得られた結論の意味や妥当性、問題解決の各段階が適切であったかについて、振り返って考え直す活動を取り入れる。

小学校の傾向と課題



領域別では、「粒子」を柱とする領域が全国平均と同程度といえますが、「エネルギー」「生命」「地球」において全国平均を下回っており、大きな課題となっています。

問題形式別では、「短答式」が全国平均を上回ったものの、「選択式」「記述式」では下回り、課題が見られます。特に「記述式」では、全国平均を100とした場合、香取市が86.9となる結果でした。

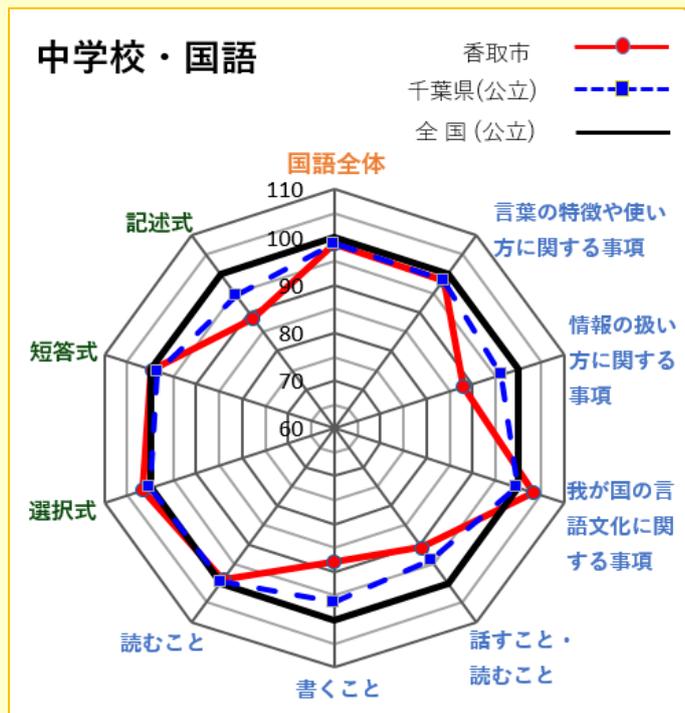
課題が見られた主な問題

● 理科1(2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く 【「生命」を柱とする領域，記述式】 [香取市 61.4% 千葉県(公立)67.2% 全国(公立)67.5%]
● 理科2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く 【「粒子」を柱とする領域，記述式】 [香取市 29.4% 千葉県(公立)36.8% 全国(公立)39.3%]
● 理科4(2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ 【「地球」を柱とする領域，記述式】 [香取市 54.4% 千葉県(公立)61.5% 全国(公立)64.5%]

力を入れたい学習

- 結果をもとにして結論を導き出す際に、記録の整理の仕方を工夫し、互いの結果を比較する中で他者の考えを受け、様々な視点から自分の考えの妥当性を検討するような学習活動を取り入れる。
- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきをとらえ、主に差異点や共通点をもとに問題を見いだす場面を設定する。
- 問題に対して根拠のある予想や仮説を発想し、自分の考えだけでなく他者の予想が確かめられた場合の結果を見通して、それをもとに解決の方法を発想する学習活動を取り入れる。

中学校の傾向と課題



内容別では、「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」は同程度といえます。しかし、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国平均を下回っています。

問題形式別では、「選択式」が全国平均を上回ったものの、「短答式」「記述式」では下回り、課題が見られます。特に「記述式」では、全国平均を100とした場合、香取市が88.5となる結果でした。

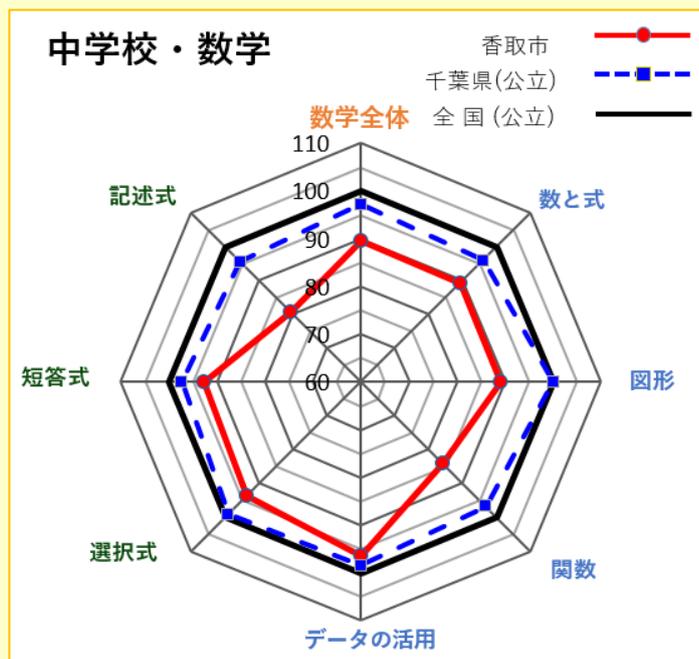
課題が見られた主な問題

● 国語 1 三	スピーチのどの部分をどのようにして工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く 【言葉の特徴や使い方に関する事項, 話すこと・聞くこと, 記述式】 [香取市 40.9% 千葉県(公立)45.0% 全国(公立)51.8%]
● 国語 2 三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える 【情報の扱い方に関する事項, 書くこと, 記述式】 [香取市 40.9% 千葉県(公立)44.8% 全国(公立)46.5%]
● 国語 3 四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く 【読むこと, 記述式】 [香取市 70.5% 千葉県(公立)72.9% 全国(公立)73.8%]

力を入れたい学習

- ICT機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確かめたりするなどの学習活動を取り入れる。その際、話す内容や話し方を検討したり、表現の工夫の意図を明確にして工夫したことの効果を確かめたりする場面を設定する。
- 意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどを指導する。
- 物語の結末などについて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりして解釈し、それぞれの考えを伝え合う学習活動を設定する。

中学校の傾向と課題



領域別では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」すべてにおいて全国平均を下回っており、特に「関数」は、全国平均を100とした場合、香取市が84.2となる結果でした。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて全国平均を下回っており、特に「記述式」が大きな課題となっています。全国平均を100とした場合、香取市が80.7となる結果でした。

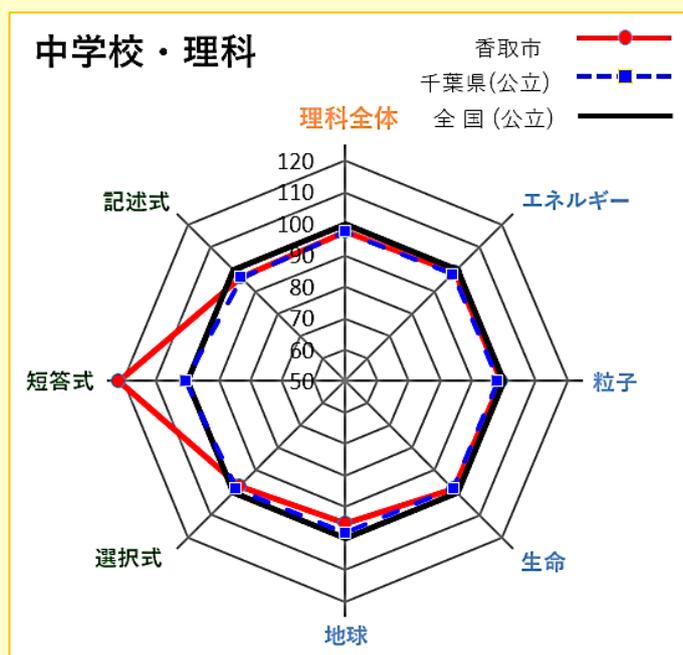
課題が見られた主な問題

● 数学4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ 【関数, 選択式】 [香取市 29.3% 千葉県(公立)36.9% 全国(公立)37.9%]
● 数学6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの証明を完成する 【数と式, 記述式】 [香取市 38.1% 千葉県(公立)45.7% 全国(公立)48.7%]
● 数学8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する 【関数, 記述式】 [香取市 28.0% 千葉県(公立)36.3% 全国(公立)38.4%]

力を入れた学習

- 一次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができるようにするために、 x と y の増加量やその割合を調べる学習活動を設定し、変化の割合の意味を理解できるように指導する。
- 事柄が一般的に成り立つ理由を、見通しをもって説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるようにする学習活動を取り入れる。その際、必要に応じて、説明を洗練させていく活動や説明し合う場面を取り入れていく。
- 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにするために、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかという「用い方」について考え、的確に説明できるように指導する。

中学校の傾向と課題



領域別では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域すべてにおいて、全国平均と同程度といえます。

問題形式別では、「短答式」が全国平均を大きく上回っています。全国平均を100とした場合、香取市が121.4となる結果でした。「選択式」「記述式」は全国平均と同程度といえます。

課題が見られた主な問題

● 理科1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する 【「エネルギー」を柱とする領域、選択式】 [香取市 39.0% 千葉県(公立)43.9% 全国(公立)44.2%]
● 数学2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する 【「地球」を柱とする領域、選択式】 [香取市 36.1% 千葉県(公立)39.9% 全国(公立)40.8%]
● 数学8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する 【「生命」を柱とする領域、記述式】 [香取市 50.2% 千葉県(公立)54.2% 全国(公立)55.1%]

力を入れた学習

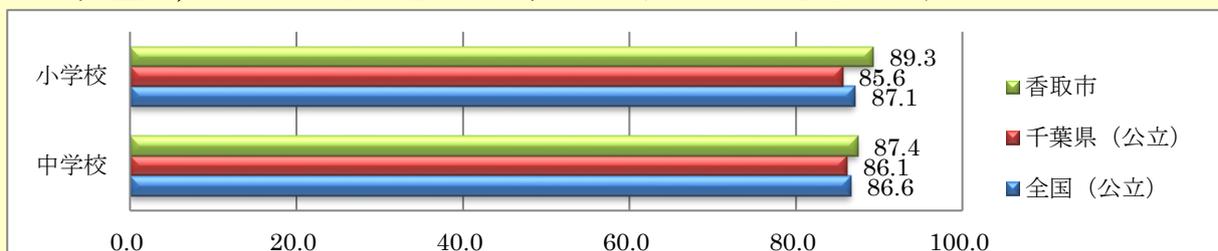
- 日常生活の動作の中で発生する静電気の性質により引き起こされる現象や、静電気を利用したものを静電気の性質と関連付けて説明する学習場面を設定する。その際、帯電と放電に分けて整理するように指導する。
- 校庭にある百葉箱の観測データとタブレット型端末で空の様子を撮影した画像を、天気図と関連付けて考察する学習場面を設定する。その際、複数の観測データから読み取った情報を統合し、分析して解釈できるように指導する。
- 課題を解決するまでの探究の過程を見通せるようにするため、実験の計画を立案する場面で予想や仮説と異なる結果が出る場合を想定し、探究の方法について検討する学習場面を設定する。その際、話し合い活動を通して、適切な探究の方法を確認することで、観察、実験の基本的な技能を身に付けられるよう指導する。

7 生活習慣や学習習慣等について

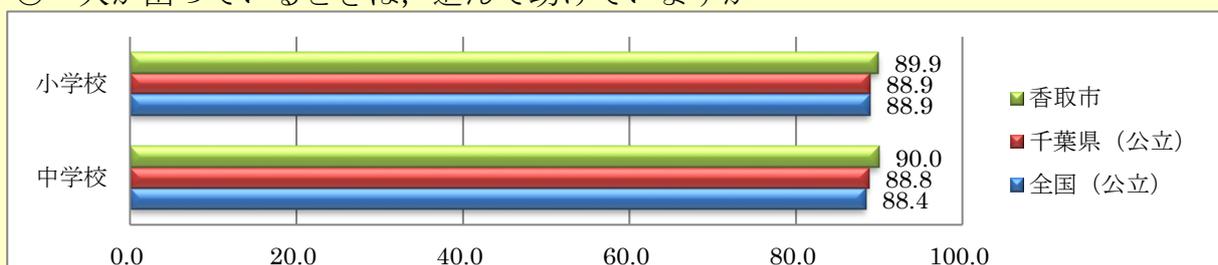
児童・生徒質問紙調査の結果から

※児童・生徒質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした児童・生徒の割合（％）

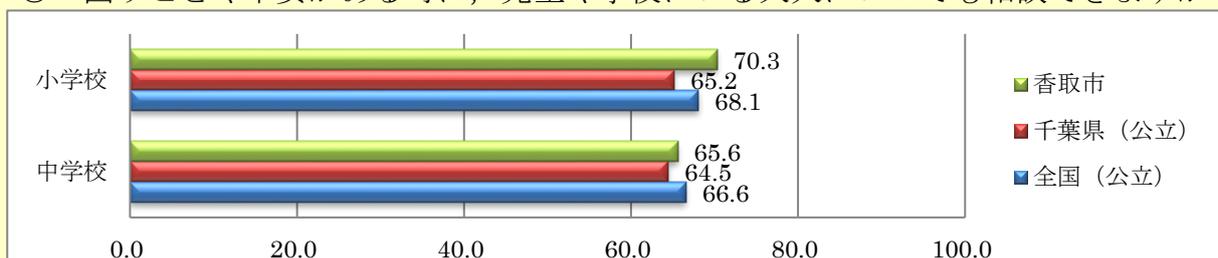
○ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか



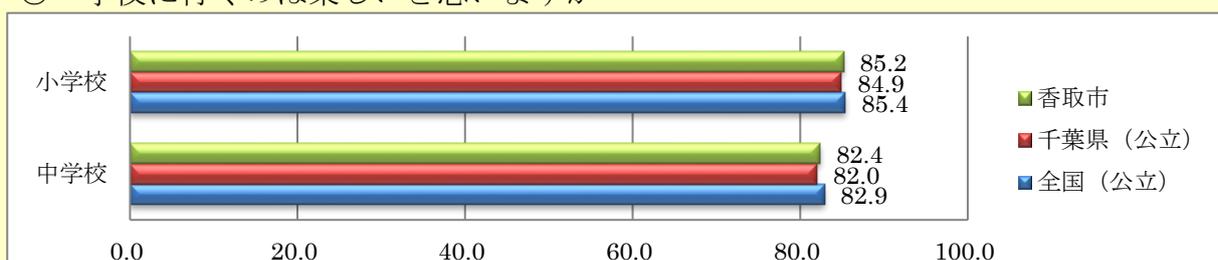
○ 人が困っているときは、進んで助けていますか



○ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



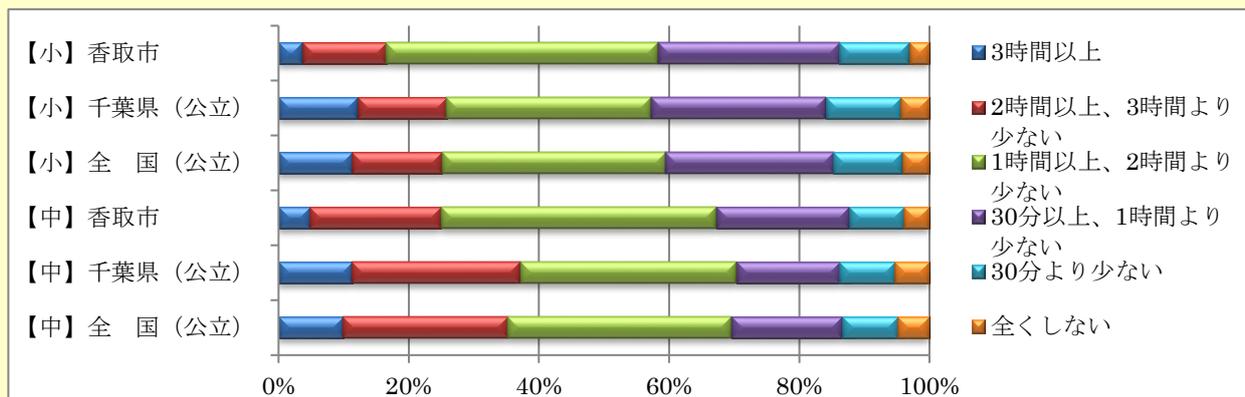
○ 学校に行くのは楽しいと思いますか



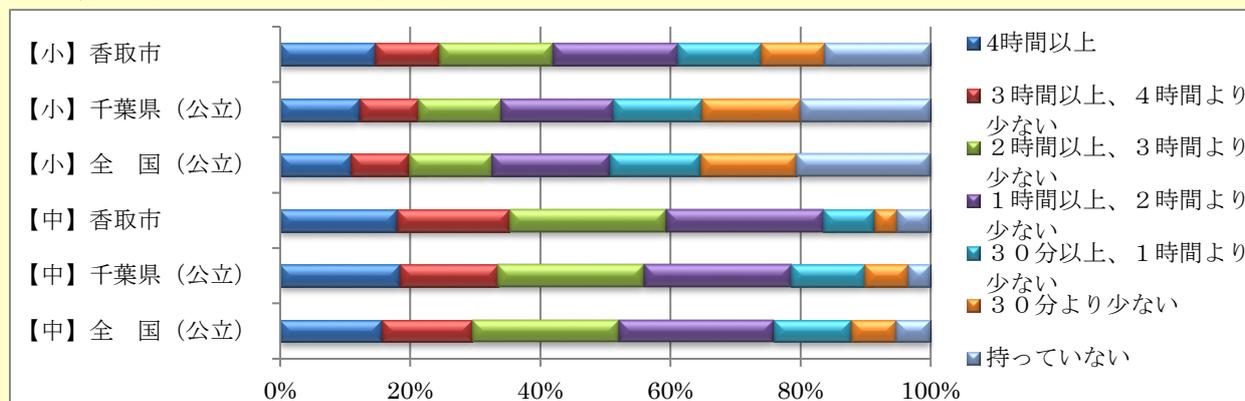
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」の問いに対して、約90%の児童生徒が肯定的に回答しており、児童生徒と教職員の関係は比較的良好といえます。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対しては、全国や県と同程度の肯定的な回答が得られ、学校生活への安心感や充実感がある子が多いと考えられます。

一方で、肯定的に回答できなかった児童生徒の心情にも焦点を当て、その原因について教育相談等を通じて明らかにし、具体的な改善に取り組む必要があります。

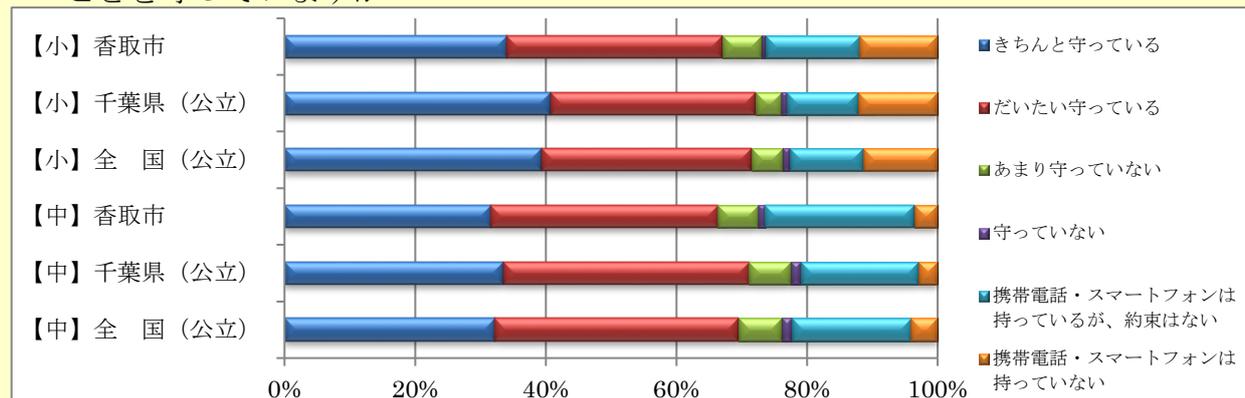
○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



○ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



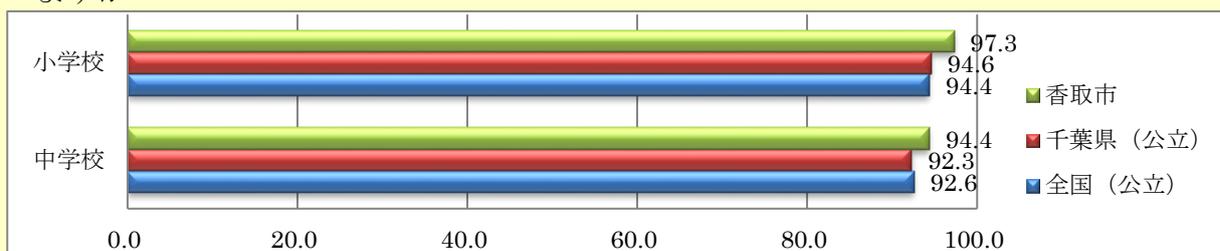
○ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



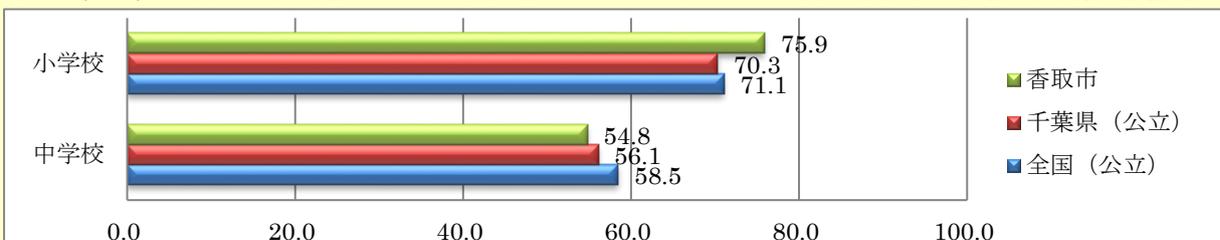
学校の授業以外に勉強する時間は、全国や県に比べ、3時間以上勉強する児童生徒の割合が低く、1時間以上2時間未満の勉強をする子の割合が多かったです。また、携帯電話やスマートフォンによる SNS や動画視聴に関しては、全国や県に比べ、1時間以上利用している子の割合が多かったです。

一方、携帯電話・スマートフォン等の使い方について、全国や県に比べ、香取市の児童生徒は「家の人との約束がない」と答えた割合が多かったです。

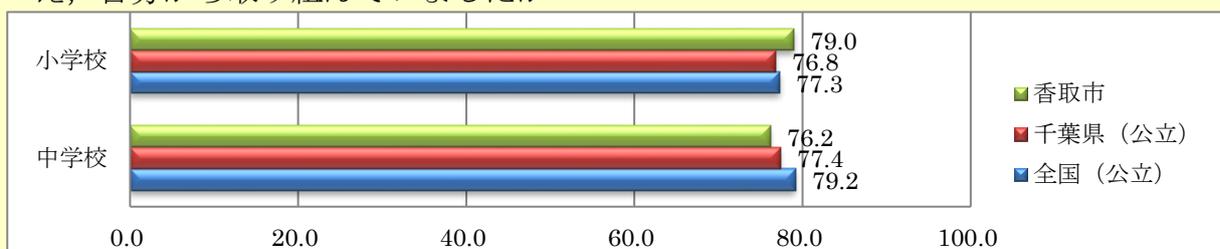
○ 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは、勉強の役に立つと思いますか



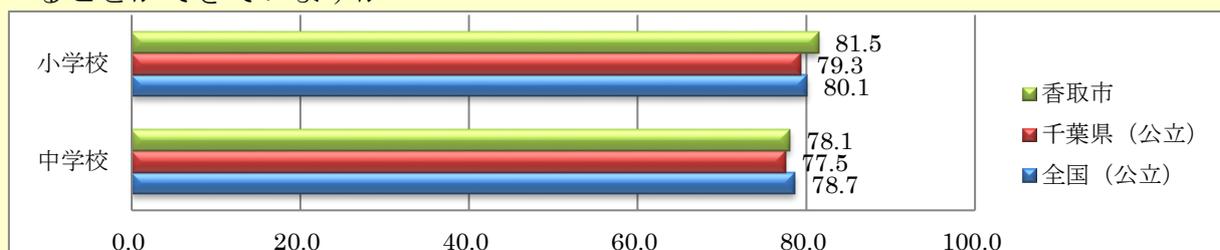
○ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)



○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



○ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

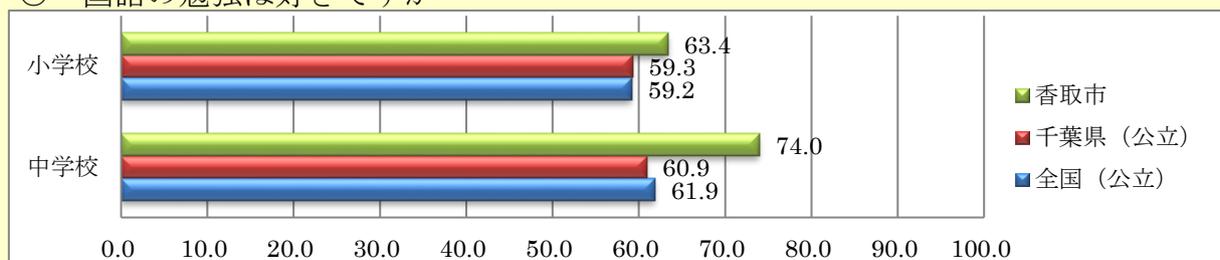


「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは、勉強の役に立つと思いますか」の問いに対し、香取市の児童生徒は全国や県よりも高い割合で肯定的に答えており、ICT 機器の有用性を強く感じていることが分かります。

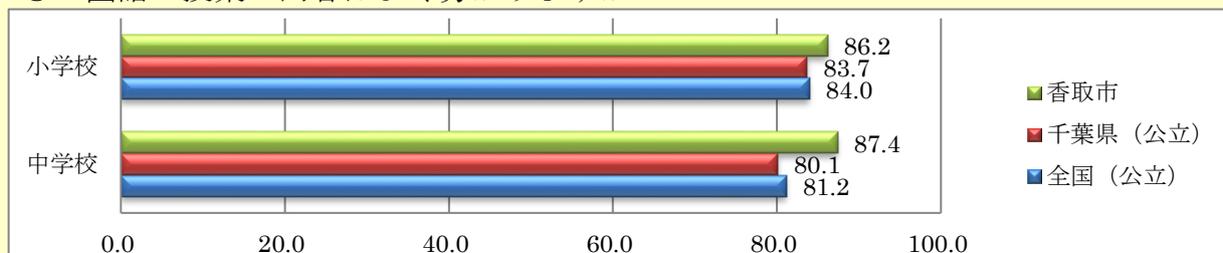
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに対し、特に小学校で高い割合の肯定的な回答がありました。家庭学習や自主学習の計画を立てられる子どもが多いと考えられます。中学校ではやや低い割合で表れていることから、学習における計画性を育てる手立てが必要といえます。

課題解決に向けて主体的に取り組む意識は全国や県と同程度であり、自分で考えて学べる児童生徒の割合が高いといえます。また、話し合いや対話等を通じて深い学びを得たり、学びを広げたりすることを実感できている児童生徒も約 80%います。

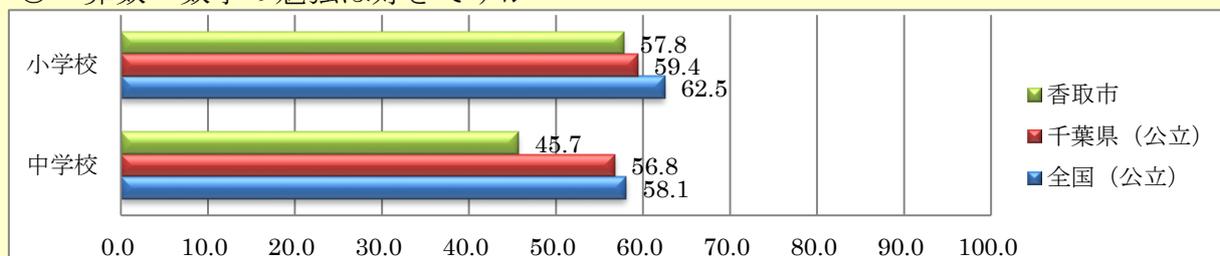
○ 国語の勉強は好きですか



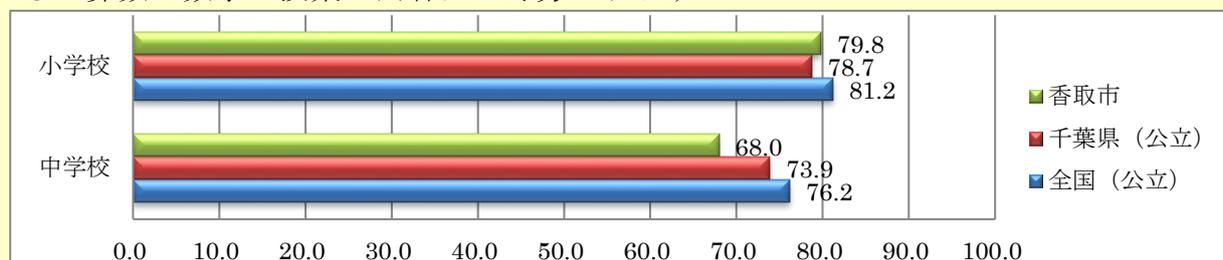
○ 国語の授業の内容はよく分かりますか



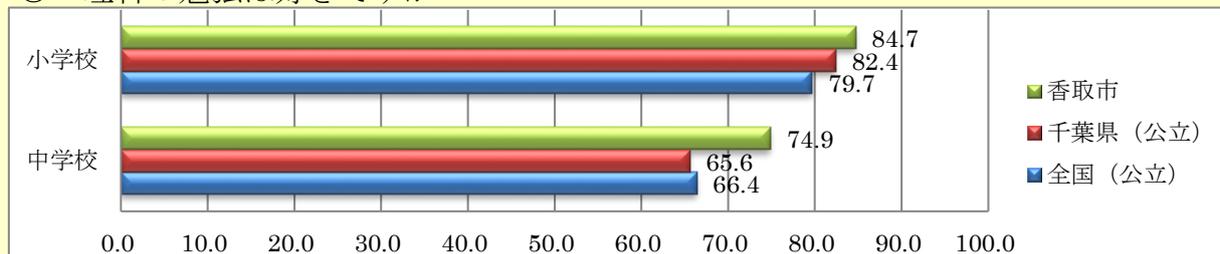
○ 算数・数学の勉強は好きですか



○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



○ 理科の勉強は好きですか



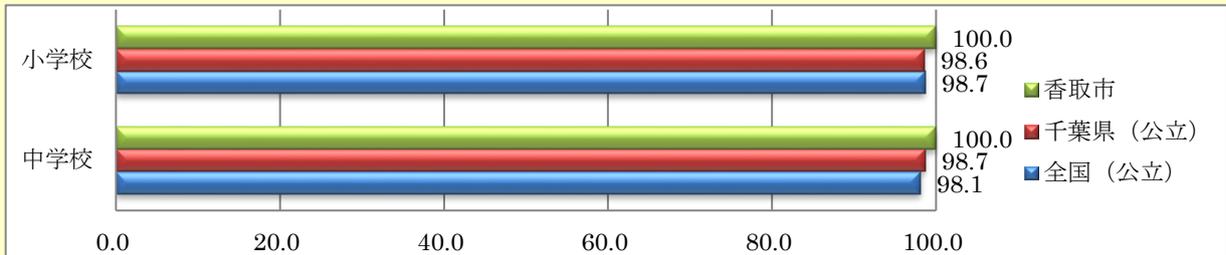
国語や理科については「好き」と答える児童生徒が多く、全国や県の割合を大きく上回っています。特に中学校国語への肯定的な回答の割合は非常に高く、理由のひとつに「授業の内容がよく分かる」ことが考えられます。

一方で、算数・数学について「好き」と答える児童生徒が少なく、全国や県と比較して低く表れました。特に中学校数学が低く、その一因として「授業の内容がよく分からない」ことが推察される結果となりました。大きな課題といえます。

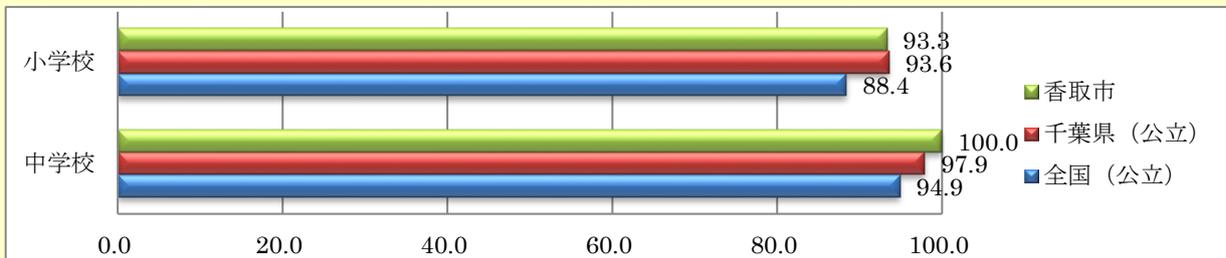
学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合(%)

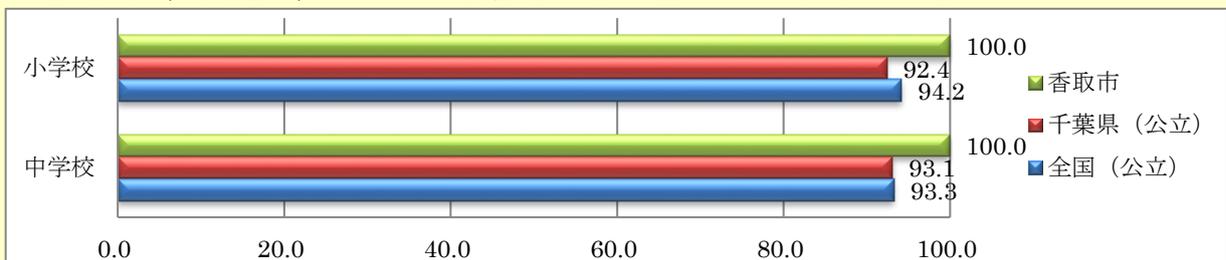
- 調査学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか



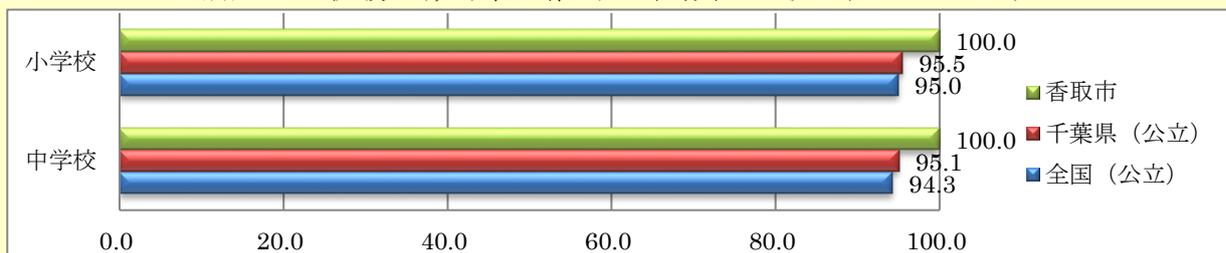
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか



- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



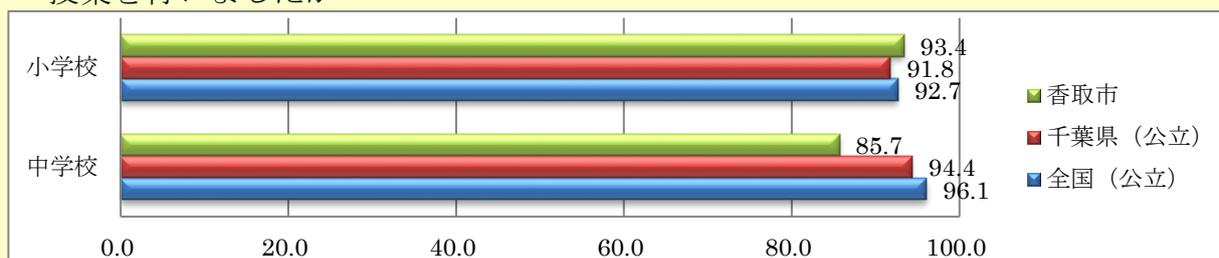
- ICTを活用した校務の効率化(仕事の軽減)に取り組んでいますか



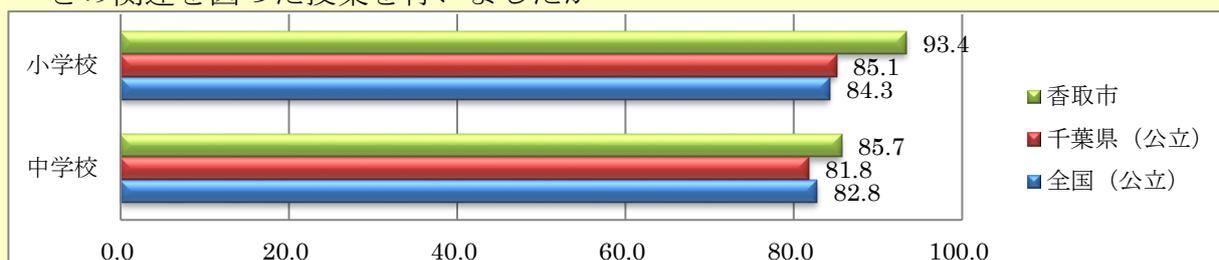
問いに対して肯定的に回答した学校の割合が高く、児童生徒一人一人を認めて伸ばし、不安を取り除いて安心感を高める相談体制を備えた学校づくりが進められていることが分かります。

また、全小中学校において、児童生徒の実態や調査、各種データに基づいた教育課程の編成と、その改善を図る一連のPDCAサイクルを機能させており、ICTを活用した校務の効率化にも取り組んでいる様子が分かります。良好な結果といえます。

○ 児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか



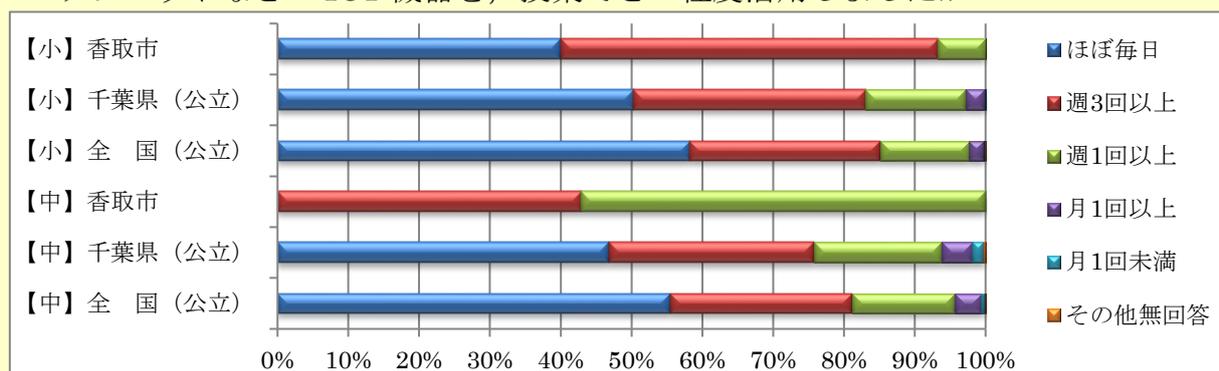
○ 児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



○ 児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか



○ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか



教科の指導では、算数・数学で実生活と関連を図った授業を行った学校が多く、この点に関しては良好な結果といえます。一方で、国語の書くことに関する指導や、理科の予想や仮説をもとに観察、実験の計画を立てることに関する指導には課題が見られます。

また、授業での ICT 活用では、全国や県と比較して、その使用頻度に課題があることが分かりました。同時に、効果的な活用方法も考えていく必要があります。

教科等の重点的な指導について

◆「思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善

- ・単元計画や授業計画の中に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」という4つの過程を意図的・計画的に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に引き続き取り組む。

◆学習の見通しをもち、「振り返り」を大切にした授業づくり

- ・既習内容や生活経験といった根拠のある見通しをもたせる工夫をする。
- ・学んだことを振り返り、「自分の言葉でまとめる」活動に徹底して取り組む。

◆個別最適な学び・協働的な学びを支えるICT活用

- ・児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法や教材等の提供及び学習時間の柔軟な設定等をするために、積極的にICTを活用する。
- ・児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習目標に取り組む機会等を提供するために、積極的にICTを活用する。
- ・探究的な学習や体験活動等を通じて、子ども同士や多様な他者とのオンラインを含む協働的な学びを推進する。

◆言語活動の日常的な充実

各教科において、児童生徒の言語活動の機会を日常的に確保するとともに、それらの表現の質をさらに高められるように以下の取組を行う。

- ・語彙を増やす活動
- ・話し合う内容の焦点化
- ・発表の仕方の工夫
- ・感想や意見を書く活動
- ・長文や物語を要約する活動

◆検証機能を大切にした「指導改善サイクル」の改善

- ・全国学力・学習状況調査の問題の内容を把握する。
- ・全国学力・学習状況調査結果の把握とその分析を行う（県分析ツールの活用）。
- ・指導改善の取組を行う。
- ・指導改善の取組結果を検証する（客観的な分析による成果と課題の明確化）。

生活習慣・学習習慣について

◆生活習慣の見直しと改善

- ・児童生徒の携帯電話やスマートフォンの長時間利用や、家庭での利用ルールの未設定などの課題に対し、情報モラルや情報リテラシー、健康の維持増進等の観点から見直しと改善を図るとともに、保護者に対して啓発を図る。

◆家庭での学習習慣の定着

- ・学校（教員）は、児童生徒の実態に合わせて、家庭学習の量や質、方法、時間などを十分検討し、内容の充実を図る。
- ・学校（教員）は、児童生徒に対して家庭での学習方法や内容の充実を図るための指導、助言を行う。
- ・学校（教員）は、保護者に対して家庭学習の啓発を図り、習慣化できるように支援する。

9 指導の重点

○文部科学省提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査 解説資料
- ・令和4年度全国学力学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例

○千葉県教育委員会提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・「全国学力・学習状況調査データ」の分析ツール
- ・学びの突破口ガイド（小学校 低・中・高学年）
- ・ちばっ子チャレンジ100（小学校 低・中・高学年）
- ・「ちばのやる気」学習ガイド1・2・3（中学校 全学年）
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム改訂版
（小学校1年～中学校3年）

○千葉県教育委員会では、家庭学習の充実をめざし、さまざまな視点から自らの学びを築くためのヒントをホームページに掲載しています。

対象は、児童生徒のみなさんや保護者の方々、そして学校の先生方です。

下記URLを参照して、家庭で、学校でご活用ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>

○香取市教育委員会では、保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」を作成し、全小中学校の児童生徒を通して全家庭に配付しています。

下記URLを参照して、家庭でご活用ください。

<http://www.city.katori.lg.jp/kosodate/gakkokyoiku/kateigakushu.html>